

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

14.06.2004

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日
Date of Application:

2004年 2月 25日

出願番号
Application Number:

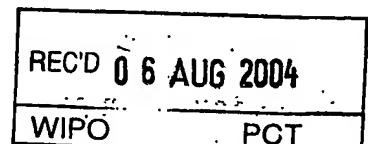
特願 2004-049782

[ST. 10/C]:

[JP 2004-049782]

出願人
Applicant(s):

テクノコアインターナショナル株式会社



BEST AVAILABLE COPY

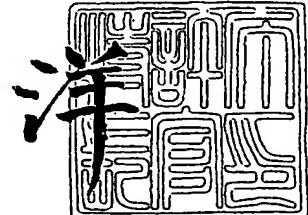
CERTIFIED COPY OF
PRIORITY DOCUMENT

PRIORITY DOCUMENT
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN
COMPLIANCE WITH
RULE 17.1(a) OR (b)

2004年 7月 23日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

小川



【書類名】 特許願
【整理番号】 G7H13296
【提出日】 平成16年 2月25日
【あて先】 特許庁長官殿
【国際特許分類】 H02J 7/04
【発明者】
【住所又は居所】 兵庫県神戸市中央区港島南町五丁目 5番 2号 神戸国際ビジネスセンター テクノコインターナショナル株式会社内
【氏名】 高岡 浩実
【発明者】
【住所又は居所】 兵庫県神戸市中央区港島南町五丁目 5番 2号 神戸国際ビジネスセンター テクノコインターナショナル株式会社内
【氏名】 瓢部 康夫
【発明者】
【住所又は居所】 兵庫県神戸市中央区港島南町五丁目 5番 2号 神戸国際ビジネスセンター テクノコインターナショナル株式会社内
【氏名】 藤原 隆道
【特許出願人】
【識別番号】 500227059
【住所又は居所】 兵庫県神戸市中央区港島南町五丁目 5番 2号 神戸国際ビジネスセンター
【氏名又は名称】 テクノコインターナショナル株式会社
【代表者】 高岡 浩実
【代理人】
【識別番号】 100080621
【弁理士】
【氏名又は名称】 矢野 寿一郎
【電話番号】 06-6944-0651
【手数料の表示】
【予納台帳番号】 001890
【納付金額】 21,000円
【提出物件の目録】
【物件名】 特許請求の範囲 1
【物件名】 明細書 1
【物件名】 図面 1
【物件名】 要約書 1

【書類名】特許請求の範囲

【請求項1】

二次電池に充電電圧を供給する充電電圧供給手段と、二次電池に通電される充電電流の電流値を検出する電流検出手段と、二次電池の充電を制御する充電制御装置と、を備えた二次電池の充電装置において、

前記充電制御装置は、

二次電池の定格満充電平衡電圧値よりも低い最低チェック電圧値と、該満充電平衡電圧値を超えるが不可逆化学反応領域には達しない所定の充電印加電圧値と、所定の刻み幅の電圧値と、を記憶した記憶手段と、

それまでのチェック電圧値に前記所定の刻み幅の電圧値を加算して新たなチェック電圧値を設定するインクリメント手段と、

前記充電電圧供給手段から供給される充電電圧を前記所定の充電印加電圧値又は前記チェック電圧値に切り換える切換手段と、

前記電流検出手段によって検出された電流値が、予め入力設定された判定基準値以下になつたか否かを判定する第1の判定手段と、

前記第1の判定手段による前回の肯定判定から今回の肯定判定までの間の所要時間が、前々回の肯定判定から前回の肯定判定までの間の所要時間の r (r は 1 以上の実数) 倍を越えたか否かを判定する第2の判定手段と、

を具備し、

以下の第1～第8ステップに従って二次電池の充電を制御する二次電池の充電装置。

(第1ステップ) 前記最低チェック電圧値で二次電池を微小時間印加して、該微小時間の間に、前記電流検出手段によって二次電池に流れている電流値を検出する。

(第2ステップ) 前記第1の判定手段でこの検出した電流値の判定を行い、該電流値が前記判定基準値を越えていれば、次の第3ステップへ移行し、一方、該電流値が前記判定基準値以下となつていれば、第4ステップへジャンプする。

(第3ステップ) 前記切換手段により充電電圧を前記所定の充電印加電圧値に切り換えて、該所定の充電印加電圧値で二次電池を所定時間印加した後、前記切換手段により充電電圧を前記最低チェック電圧値に切り換え、前記第1ステップに戻る。

(第4ステップ) 前記インクリメント手段により、それまでのチェック電圧値に前記所定の刻み幅の電圧値を加算して新たなチェック電圧値を設定する。

(第5ステップ) 前記切換手段により充電電圧を前記所定の充電印加電圧値に切り換えて、該所定の充電印加電圧値で二次電池を所定時間印加した後、前記切換手段により充電電圧を前記新たなチェック電圧値に切り換え、該新たなチェック電圧値で二次電池を微小時間印加している間に、前記電流検出手段によって二次電池に流れている電流値を検出する。

(第6ステップ) 前記第1の判定手段によってこの検出した電流値の判定を行い、該電流値が前記判定基準値を越えていれば、前記第5ステップに戻り、一方、該電流値が前記判定基準値以下となつていれば、次の第7ステップへ移行する。

(第7ステップ) 前記第2の判定手段によって前記第1の判定手段による前回の肯定判定から今回の肯定判定までの間の所要時間の判定を行い、前記第1の判定手段による前回の肯定判定から今回の肯定判定までの間の所要時間が前々回の肯定判定から前回の肯定判定までの間の所要時間の r 倍以下であれば、前記第4ステップに戻り、一方、前記第1の判定手段による前回の肯定判定から今回の肯定判定までの間の所要時間が前々回の肯定判定から前回の肯定判定までの間の所要時間の r 倍を越えていれば、充電停止信号を出力する。

【請求項2】

前記第7ステップで、前記充電停止信号が出力されると、前記切換手段により充電電圧を前記所定の充電印加電圧値に切り換えて、該所定の充電印加電圧値で二次電池を第2の所定時間印加した後、二次電池の充電を完了する、請求項1に記載の二次電池の充電装置。

【請求項3】

前記所要時間は、前記切換手段による前記チェック電圧値への切換回数をカウントすることで計測されることを特徴とする請求項1又は請求項2に記載の二次電池の充電装置。

【書類名】明細書

【発明の名称】二次電池の充電装置

【技術分野】

【0001】

本発明は、ニッケルーカドミウム電池、ニッケルー水素金属電池、鉛蓄電池等の二次電池を充電するための充電装置に関する。

【背景技術】

【0002】

二次電池の充電においては、充電の過程で、二次電池の持つ蓄電容量に対してどの程度まで充電されているかを知ることが重要である。

ところが、従来は、これを知る術はなく、従来の二次電池の充電装置は、二次電池内で起こる異常現象（温度上昇、 $-ΔV$ 特性など）を検出することで、二次電池の充電を停止していた（例えば、特許文献1参照）。

【0003】

しかしながら、このような充電方法では、過度に二次電池が充電されて、充電／放電の繰り返しに必要な二次電池の内部構造に欠陥が生じ、その結果、二次電池のサイクル寿命が縮まるという問題点があった。

【0004】

そこで、このような問題点を鑑み、本願と同出願人によって、二次電池が満充電状態（充電率が100%の状態）に達したかを定期的にチェックしながら、二次電池の内部構造に損傷を与えることなく適正且つ急速に充電を行うことができる二次電池の充電装置が発明されている（特許文献2参照）。

【0005】

この二次電池の充電装置は、二次電池に大電流を流す主充電と、二次電池の満充電状態のチェックと、を交互に繰り返しながら、二次電池を充電している。

主充電では、二次電池に満充電平衡電圧値よりも高い所定の充電印加電圧値（充電率が略0%の二次電池に電圧を印加して、印加電圧を上昇させていったときに、該印加電圧に対する充電電流の増加率が減少していき、充電電流が上昇しなくなったときの、不可逆化学反応領域外の電流ピーク値に対応する所定の充電印加電圧値）を所定時間印加して、二次電池を充電する。

【0006】

また、二次電池の満充電状態のチェックでは、二次電池に満充電平衡電圧値を微小時間印加している間に、二次電池に流れている電流値を検出し、該電流値と充電完了判定基準値とを比較して、二次電池が満充電状態に達したか否かをチェックする。

そして、この検出された電流値が充電完了判定基準値より大きいときは、二次電池がまだ満充電状態に達していないと判定して、再び主充電を行い、一方、検出された電流値が充電完了判定基準値以下のときには、二次電池が満充電状態に達したと判定して、ここで二次電池の充電を停止している。

【0007】

【特許文献1】特開平8-9563号公報

【0008】

【特許文献2】特許第3430439号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0009】

以上のように、特許文献2に開示されている充電装置は、定期的に二次電池に満充電平衡電圧値を印加して、二次電池の充電率が100%に達しているか否かをチェックしながら、二次電池を充電しているが、ところが、次のような理由から、同じ種類（例えば、ニッケルーカドミウム電池、ニッケルー水素金属電池など）で同じ型番（例えば、単3型や単4型など）の二次電池であっても、充電率が100%に達していないものがあることが

その後にわかった。

【0010】

この理由は、同じ種類で同じ型番の二次電池であっても、メーカの違い、機種の違い、使用履歴の違いなどによって、その蓄電容量や満充電平衡電圧値が微妙に異なり、また、外国製の二次電池の中には、種類、型番、メーカ、機種などが全て同じであっても、その蓄電容量や満充電平衡電圧値が異なるものもある。このために、特許文献2に開示されている充電装置で、同じ種類、同じ型番の二次電池を充電した場合に、その二次電池が持つ実際の満充電平衡電圧値と、充電装置に設定されている満充電平衡電圧値とが微妙に違つて、ある二次電池は充電率が90%程度までしか充電されておらず、ある二次電池では充電率が100%以上に過充電されていることもあった。

【0011】

そこで、本発明では、このような点を鑑み、二次電池の種類や型番等に関わらず、どのような二次電池であっても、充電率が略100%になるように充電することができる二次電池の充電装置を提供することを課題とする。

【課題を解決するための手段】

【0012】

以上、発明が解決しようとする課題であり、次に、この課題を解決するための手段を説明する。

まず、請求項1に記載のように、二次電池に充電電圧を供給する充電電圧供給手段と、二次電池に通電される充電電流の電流値を検出する電流検出手段と、二次電池の充電を制御する充電制御装置と、を備えた二次電池の充電装置において、前記充電制御装置は、二次電池の定格満充電平衡電圧値よりも低い最低チェック電圧値と、該満充電平衡電圧値を超えるが不可逆化学反応領域には達しない所定の充電印加電圧値と、所定の刻み幅の電圧値と、を記憶した記憶手段と、それまでのチェック電圧値に前記所定の刻み幅の電圧値を加算して新たなチェック電圧値を設定するインクリメント手段と、前記充電電圧供給手段から供給される充電電圧を前記所定の充電印加電圧値又は前記チェック電圧値に切り換える切換手段と、前記電流検出手段によって検出された電流値が、予め入力設定された判定基準値以下になったか否かを判定する第1の判定手段と、前記第1の判定手段による前回の肯定判定から今回の肯定判定までの間の所要時間が、前々回の肯定判定から前回の肯定判定までの間の所要時間のr(rは1以上の実数)倍を越えたか否かを判定する第2の判定手段と、を具備し、以下の第1～第8ステップに従って二次電池の充電を制御する。

(第1ステップ) 前記最低チェック電圧値で二次電池を微小時間印加して、該微小時間の間に、前記電流検出手段によって二次電池に流れている電流値を検出する。

(第2ステップ) 前記第1の判定手段でこの検出した電流値の判定を行い、該電流値が前記判定基準値を越えていれば、次の第3ステップへ移行し、一方、該電流値が前記判定基準値以下となつていれば、第4ステップへジャンプする。

(第3ステップ) 前記切換手段により充電電圧を前記所定の充電印加電圧値に切り換えて、該所定の充電印加電圧値で二次電池を所定時間印加した後、前記切換手段により充電電圧を前記最低チェック電圧値に切り換え、前記第1ステップに戻る。

(第4ステップ) 前記インクリメント手段により、それまでのチェック電圧値に前記所定の刻み幅の電圧値を加算して新たなチェック電圧値を設定する。

(第5ステップ) 前記切換手段により充電電圧を前記所定の充電印加電圧値に切り換えて、該所定の充電印加電圧値で二次電池を所定時間印加した後、前記切換手段により充電電圧を前記新たなチェック電圧値に切り換え、該新たなチェック電圧値で二次電池を微小時間印加している間に、前記電流検出手段によって二次電池に流れている電流値を検出する。

(第6ステップ) 前記第1の判定手段によってこの検出した電流値の判定を行い、該電流値が前記判定基準値を越えていれば、前記第5ステップに戻り、一方、該電流値が前記判定基準値以下となつていれば、次の第7ステップへ移行する。

(第7ステップ) 前記第2の判定手段によって前記第1の判定手段による前回の肯定判定

から今回の肯定判定までの間の所要時間の判定を行い、前記第1の判定手段による前回の肯定判定から今回の肯定判定までの間の所要時間が前々回の肯定判定から前回の肯定判定までの間の所要時間の r 倍以下であれば、前記第4ステップに戻り、一方、前記第1の判定手段による前回の肯定判定から今回の肯定判定までの間の所要時間が前々回の肯定判定から前回の肯定判定までの間の所要時間の r 倍を越えていれば、充電停止信号を出力する。

【0013】

また、請求項2に記載のように、前記第7ステップで、前記充電停止信号が出力されると、前記切換手段により充電電圧を前記所定の充電印加電圧値に切り換えて、該所定の充電印加電圧値で二次電池を第2の所定時間印加した後、二次電池の充電を完了する。

【0014】

そして、請求項3に記載のように、前記所要時間は、前記切換手段による前記チェック電圧値への切換回数をカウントすることで計測されることを特徴とする。

【発明の効果】

【0015】

以上、本発明の解決手段であり、次に本発明による効果を説明する。

まず、請求項1の発明によれば、二次電池の種類や型番等に関わらず、どのような二次電池であっても、その二次電池の満充電平衡電圧値を探り当てながら、充電率が略100%になるように充電することができ、信頼性が向上する。さらに、この充電装置は、内部構造が一部破壊されて劣化している二次電池に対しても有効で、その二次電池の現時点の満充電平衡電圧値を探り当てて、現時点の蓄電容量に対して充電率が略100%になるように充電することができる。

【0016】

そして、請求項2の発明によれば、請求項1の発明と同様の効果を奏すとともに、さらに充電率が100%に近づくように充電することができ、信頼性が向上する。

【0017】

また、請求項3の発明によっても、請求項1の発明又は請求項2の発明と同様の効果を奏する。

【発明を実施するための最良の形態】

【0018】

以下に説明する二次電池の充電装置1は、充電時には、二次電池の内部構造を損傷させないように、不可逆化学反応領域D外で、最も高い印加電圧（所定の充電印加電圧値）E_sを印加して二次電池10に大電流を流し、定期的に、印加電圧を満充電平衡電圧値E_{e_q}に切り換えて、二次電池10が満充電状態に達したかをチェックしながら充電を行うところに特徴がある。この満充電平衡電圧値E_{e_q}での満充電状態のチェックでは、瞬時に精確に満充電状態を判定することができ、この充電装置1によれば、充電完了までの時間を30分程度まで短縮することができ、また、過度な化学反応（酸化還元反応）を引き起こすことなく、満充電状態まで適正に充電ができる、その結果、二次電池の内部構造を痛めずサイクル寿命を5000回以上に向上させることができる。

【0019】

次に、図面を参照しながら、本発明の実施の一形態を説明する。

図1は二次電池の充電装置1の構成を示すブロック図であり、該二次電池の充電装置1は、電源部2、操作部3、演算制御部4、電圧・電流制御部5、電圧供給部6、表示部7、電流検出部8、電圧検出部9を有している。

【0020】

電源部2は商用交流電気を直流に変換する変圧、整流回路を含んでおり、操作部3はユーザがスタート操作等を行うための操作ボタンなどで構成されている。演算制御部4は二次電池1の充電を制御する充電制御手段であり、該演算制御部4は二次電池10の満充電平衡電圧値E_{e_q}（図2参照）と、該二次電池10の満充電平衡電圧値E_{e_q}を超える所定の充電印加電圧値E_s（図2参照）。充電率が略0%の二次電池10に印加した電圧を上

昇させる中で印加電圧の上昇に対する充電電流の増加の割合 ($\Delta I / \Delta E$) が減少して該充電電流が上昇しなくなったときの不可逆化学反応領域D外での電流ピーク値 I_s 。に対応する電圧値) とを記憶した記憶手段(メモリ)を具備し、該演算制御部4には、二次電池10が満充電状態に達したか否かを判定するプログラム等が格納されている。

【0021】

電圧・電流制御部5は前記演算制御部4からの指令に基づいて二次電池10に印加する電圧、電流の切換制御等を行っている。すなわち、電圧・電流制御部5は、二次電池10の充電電圧を所定の充電印加電圧値 E_i 又は満充電平衡電圧値 E_e 等に切り換える切換手段を構成する。電圧供給部6は、前記電圧・電流制御部5で定められた充電電圧を二次電池10に供給する一方、前記演算制御部4からの終了指示により充電を停止する。表示部7は、充電中又は充電完了等を表示する表示ランプ等で構成されている。

【0022】

電流検出部8は、二次電池10に通電される充電電流の電流値を検出し、電圧検出部9は、二次電池10に印加されている電圧値、又は二次電池10の充電電圧を検出して、この検出された電流値と、検出された電圧値とは、前記演算制御部4へ送られる。

なお、本実施の形態では、報知手段の一例として表示部7により視覚を通じてユーザに充電完了等を報知するように構成しているが、音声等により報知するように構成してもよく、報知手段の構成は特に限定はしないものとする。

【0023】

次に、本発明の充電方法を説明する上で基本となる二次電池10の充電電圧と充電電流との特性について、図2のグラフに基づいて説明する。

図2におけるグラフの横軸には電池端子電圧(印加電圧) E (V)を、また縦軸には充電電流 I (mA)をとっており、充電率が異なる二次電池10の電圧一電流特性をそれぞれ示している。

【0024】

図2の破線で示すグラフ α は、充電率が略0%の二次電池10の充電時の電圧一電流特性を示しており、この場合は標準電圧 E^0 (公称電圧) より低い電圧 E_α を印加しても充電電流が流れ出す。この充電電流が流れ出す時の印加電圧(電池端子電圧)が開放電圧であり、この開放電圧は充電率が高いほど高くなる。

【0025】

図2の一点鎖線で示すグラフ β は、充電率が約50%の二次電池10の充電時における電圧一電流特性を示しており、印加電圧を(0(V)から)上昇させていったときに二次電池10に充電電流が流れ始める開放電圧 E_β は、充電率が略0%の二次電池10の開放電圧 E_α よりも高くなる。

【0026】

図2の二点鎖線で示すグラフ γ は、充電率が約90%の二次電池10の充電時における電圧一電流特性を示しており、開放電圧は E_γ ($E_\gamma > E_\beta$) である。また、図2の実線で示すグラフ δ は、充電率が略100% (100%未満) の二次電池10の充電時における電圧一電流特性を示しており、開放電圧は E_δ ($E_\delta > E_\gamma$) である。そして、充電率が100%の(満充電状態の) 二次電池10の開放電圧の値が、満充電平衡電圧値 E_{eq} ($E_{eq} > E_\delta$) である。

【0027】

二次電池10は充電率に応じた開放電圧 E_α 、 E_β 、 E_γ 、 E_δ 等を越えると、略印加電圧に比例して充電電流が増大していき、所定の電圧(電圧一電流曲線における変曲点)を過ぎると、印加電圧に対する充電電流の増加率 ($\Delta I / \Delta E$) は減少し、やがて、印加電圧を上昇させても充電電流は全く上昇しなくなり、充電電流は電流ピーク値 I_s 。に到達する。

【0028】

このように、印加電圧に対する充電電流の増加率 ($\Delta I / \Delta E$) が0となったときの電流ピーク値 I_s 。に対応する印加電圧値は E_s となり、この所定の充電印加電圧値 E_i は

二次電池10の種類や二次電池10の劣化状態などによって決まる二次電池10に固有の電圧値となる。

【0029】

前記所定の充電印加電圧値 E_s を超える電圧が印加されると、二次電池10は、内部で活性物質の酸化還元反応がさらに進んで、電気分解反応を惹き起こし、負性抵抗特性が現れて、意図しない発熱反応や、膨潤等の異常により、ともすれば二次電池10の内部構造の破壊に繋がる恐れがある。また、そこまでには至らないにしても、不可逆化学反応が伸展し二次電池10のサイクル寿命に大きな影響を与えてしまう。このような、二次電池10に悪影響を及ぼす不可逆化学反応が生じるような、充電電流と印加電圧との関係で画定される領域が、図2にて斜線で示す不可逆化学反応領域Dである。

【0030】

従って、二次電池10の充電においては、二次電池10が満充電（充電率100%）に至るまで、印加電圧に対する充電電流の相対値が反応分水嶺Ldを越えて不可逆化学反応領域Dに入らないように印加電圧を制御することが必要となる。

【0031】

ところで、二次電池10の蓄電容量は、充電電流と充電時間との積で求められる。このため、充電時間を短くしようとすれば、充電電流を増やすことが必要である。

図2に示すように、充電率が略0%の二次電池10に満充電平衡電圧値 E_{eq} を印加すると、充電率が上昇するに連れて、二次電池10に流れる充電電流は I_{eq} 。 $(< I_s)$ から減少していく。そして、二次電池10が満充電状態（充電率100%）に達したときには、充電電流は0(mA)となるため、満充電状態の判定が行いやすい。しかしながら、この満充電平衡電位 E_{eq} による充電では、前記所定の充電印加電圧値 E_s による充電に比べて、充電電流が低く、充電時間がかなり長くなってしまう。

【0032】

そこで、主充電では、二次電池10に、不可逆化学反応領域D外で最も高い充電電流（電流ピーク値 I_s 。）を流すことが可能な所定の充電印加電圧値 E_s を印加して、該二次電池10に大電流を流し、そして、定期的に、二次電池10に印加する電圧値を満充電平衡電圧値 E_{eq} に切り換えて、二次電池10が満充電状態に達したか否かのチェックを行うこととする。

なお、大電流充電のための印加電圧の値は、電流ピーク値 I_s 。に対応する前記所定の充電印加電圧値 E_s に限らず、それよりやや低い電流値に対応する電圧値($< E_s$)でもよい。

【0033】

次に、二次電池の充電装置1の第1実施形態について説明する。

この第1実施形態に係る二次電池の充電装置1は、後に示す第2実施形態に係る二次電池の充電装置1、及び第3実施形態に係る二次電池の充電装置1の基本構成となる。

【0034】

この第1実施形態に係る二次電池の充電装置1は、図1に示すように構成されており、演算制御部4には、二次電池10を満充電平衡電圧値 E_{eq} で印加中に電流検出部8で検出されたチェック電流値iと、予め入力設定された充電完了判定基準値J（例えば、10(mA)）とを比較判定する判定手段である判定プログラムが組み込まれている。

【0035】

次に、図4を参照しながら第1実施形態に係る充電装置1による充電の流れを説明する。

- まず、ユーザが充電する二次電池10の種類を操作部3から演算制御部4に入力すると、該演算制御部4中の記憶手段に予め記憶設定されたテーブルの中から、この二次電池10の種類に相当する所定の充電印加電圧値 E_s と、満充電平衡電圧値 E_{eq} とがそれぞれ選択される。

【0036】

この所定の充電印加電圧値 E_s と満充電平衡電圧値 E_{eq} とは、ニッケルーカドミウム

電池、ニッケル－水素電池等の二次電池の種類や蓄電容量、型番等によって決まる固有の値であり、例えば、ニッケル－カドミウム電池の場合、満充電平衡電圧値 E_{eq} は約1.41(V)、所定の充電印加電圧値 E_s はそれよりも高い約1.80(V)として選択される。

【0037】

次に、ユーザは操作部3を操作すると、充電が開始され（ステップA1）、二次電池10は所定の充電印加電圧値 E_s で所定時間 T_1 （例えば、55(秒)）継続して印加される（ステップA2）。そして、この一定時間 T_1 経過後、印加電圧が満充電平衡電圧値 E_{eq} に切り換えられ（ステップA3）、この満充電平衡電圧値 E_{eq} で二次電池10を微小時間 T_2 （例えば、5(秒)）印加している間に、電流検出部8によって二次電池10に流れている電流値 i を検出する（ステップA4）。

【0038】

そして、前記判定プログラムによって、この検出された電流値 i と、前記判定基準値 J とを比較して（ステップA5）、該電流値 i が該判定基準値 J よりも大きければ、前記ステップA2に戻って、上述のフロー（充電制御）を繰り返し、一方、該電流値 i が該判定基準値 J 以下であれば、二次電池10が満充電状態に達しているとして、ここで充電を停止する（ステップA6）。

【0039】

以上のように、第1実施形態に係る充電装置1によれば、二次電池10の内部で過度な化学反応（酸化還元反応）を引き起こすことなく、二次電池10を満充電状態まで適正に充電することができる。また、この充電装置1によれば、二次電池10の内部構造に損傷を与えるのを防止することができるため、サイクル寿命を飛躍的に向上させることができる。さらに、この充電装置1は、主なる充電で、二次電池10に満充電平衡電圧値 E_{eq} 以上の所定の充電印加電圧値 E_s を印加して、該二次電池10にかなり大きな充電電流を流しており、これにより充電時間を大幅に短縮することができる。

【0040】

以上のように、第1実施形態に係る充電装置1は、定期的に二次電池10に満充電平衡電圧値 E_{eq} を印加して、その充電率が100%に達しているか否かをチェックしながら、二次電池10を充電しているが、ところが、次のような理由から、同じ種類（例えば、ニッケル－カドミウム電池、ニッケル－水素金属電池など）で同じ型番（例えば、単3型や単4型など）の二次電池10であっても、充電率が100%に達していないものがあることがその後にわかった。

【0041】

この理由は、同じ種類で同じ型番の二次電池10であっても、メーカーの違い、機種の違い、使用履歴の違いなどによって、その蓄電容量や満充電平衡電圧値が微妙に異なり、また、外国製の二次電池10の中には、種類、型番、メーカー、機種などが全て同じであっても、その蓄電容量や満充電平衡電圧値 E_{eq} が異なるものもある。このために、第1実施形態に係る充電装置1によって、同じ種類、同じ型番の二次電池10を充電した場合に、その二次電池10が持つ実際の満充電平衡電圧値と、充電装置1に設定されている満充電平衡電圧値 E_{eq} とが微妙に違って、ある二次電池10は充電率が90%程度までしか充電されておらず、ある二次電池10は充電率が100%以上に過充電されていることもあった。

【0042】

そこで、第2実施形態に係る二次電池の充電装置1は、このような点を鑑み、次のように改良が図られている。

【0043】

この第2実施形態に係る充電装置1も、図1に示すように構成されており、演算制御部4と、電圧・電流制御部5以外の構成は、前記第1実施形態の充電装置1と略同様である。

【0044】

演算制御部4の記憶手段(メモリ)には、測定対象となるどの二次電池10の定格満充電平衡電圧値よりも低い最低チェック電圧値 E_1 と、該満充電平衡電圧値を超えるが測定対象となるどの二次電池10も不可逆化学反応領域Dには達しない所定の充電印加電圧値 E_t ($\leq E_s$)、所定の刻み幅の電圧値 ΔE と、が記憶されている。

また、演算制御部4には、後述の条件が満たされた場合に、それまでのチェック電圧値 E_c に前記所定の刻み幅の電圧値 ΔE を加算して新たなチェック電圧値 E_{c+1} (= $E_c + \Delta E$)を設定するインクリメントプログラムが組み込まれている。ここで、チェック電圧値 E_c は、最低チェック電圧値 E_1 から電圧値 ΔE をc回(cは1以上の整数)インクリメントした電圧値であり、 $E_{c+1} = E_1 + \Delta E \cdot c$ と表すこともできる。

【0045】

さらに、演算制御部4には、二次電池10をチェック電圧値 E_c で印加中に電流検出部8で検出された電流値iが、予め入力設定された判定基準値K(例えば、1(mA))以下になったか否かを判定する第1判定プログラムと、該第1判定プログラムによる前回の肯定判定(二次電池10にチェック電圧値 E_{c-1} を印加しているときに検出された電流値iが判定基準値K以下との判定)から今回の肯定判定(二次電池10にチェック電圧値 E_c を印加しているときに検出された電流値iが判定基準値K以下との判定)までの間に、電圧・電流制御部5によるチェック電圧値 E_c への切換回数をカウントする計測プログラムと、該第1判定プログラムによる前回の肯定判定から今回の肯定判定までのチェック電圧値 E_c への切換回数が前々回の肯定判定から前回の肯定判定までのチェック電圧値 E_{c-1} への切換回数のr(rは1以上の実数)倍を越えたか否かを判定する第2判定プログラムと、が組み込まれている。ただし、この計測プログラムによる計測と、第2判定プログラムによる判定とは $c \geq 2$ の場合に行われるものとする。

【0046】

以上のように、第2実施形態に係る充電装置1の演算制御部4には、インクリメント手段であるインクリメントプログラムと、判定手段である第1判定プログラム及び第2判定プログラムと、計測手段である計測プログラムとが、格納されている。

なお、計測プログラムと第2判定プログラムとは上記構成に限らず、計測プログラムは前記第1判定プログラムによる前回の肯定判定から今回の肯定判定までの間の所要時間を計測する構成とし、第2判定プログラムは第1判定プログラムによる前回の肯定判定から今回の肯定判定までの間の所要時間が、前々回の肯定判定から前回の肯定判定までの間の所要時間のr倍を越えたか否かを判定する構成としてもよい。

【0047】

また、切換手段である電圧・電流制御部5は、二次電池10の充電電圧を、充電を行うための所定の充電印加電圧値 E_t 又は二次電池10の満充電状態をチェックするためのチェック電圧値 E_c (最低チェック電圧値 E_1 を含む)に切り換える。

【0048】

次に、第2実施形態に係る充電装置1による充電の概要を説明する。

この第2実施形態に係る充電装置1による充電を、陸上競技の走り高跳びに例えて説明すると、ここに、その高飛び能力が正確にはわからない競技者(満充電平衡電圧値が正確にはわからない二次電池)がいるとする。

【0049】

まず、バーの高さを最低高さ(最低チェック電圧値 E_1)に設定して、競技(充電)を行い、競技者がこの最低高さをクリア(第1判定プログラムによる判定で、検出された電流値iが判定基準値K以下と判定)すると、そのクリアまでに要した試技の回数を記録しておく。通常の走り高跳びのルールでは、試技の回数は3回まであるが、ここでのルールは、試技の回数は前回の高さ(チェック電圧値 E_c)でその高さをクリアするまでに要した回数のr倍以内とする。例えば、このrは1として、前回の高さ(チェック電圧値 E_c)でその高さをクリアするまでに10回の試技を要した場合は、バーの高さ(電圧値)を所定高さ(所定の刻み幅の電圧値 ΔE)上げた後の今回の高さ(新たなチェック電圧値 E_{c+1})では試技の回数は10回までとして、10回を越えると(第2判定プロ

グラムによる判定)、そこで競技(充電)を終了するものとする。

【0050】

図4は図2における矢視Pの部分を拡大した図であり、ニッケル-水素電池を例に挙げて説明する。

電圧-電流特性は、充電が進むに連れて(充電率が上昇するに連れて)、図4中の矢印の方向に推移していき、反応分水嶺Ldに沿う直線が充電率100%の直線となる。

まず、最低チェック電圧値E₁を1.40(V)に設定して、満充電平衡電圧値E_{e,q}を超えるが不可逆化学反応領域Dには達しない所定の充電印加電圧値による充電と、該最低チェック電圧値E₁による充電状態のチェックとを繰り返していく。この最低チェック電圧値E₁によるチェック回数が増えるに従って、チェック時に検出される電流値iは減少していき、図4中の1.40(V)上の太線に沿って下降していく。そして、例えば、20回目の最低チェック電圧値E₁によるチェックで、検出された電流値iが判定基準値K以下と判定されたとする。

【0051】

次のチェック電圧値E₂は、最低チェック電圧値E₁から0.01(V)上げて1.41(V)に設定し、このチェック電圧値E₂による最初の充電状態チェックでは、ニッケル-水素電池に2(mA)弱の電流が流れ、該チェック電圧値E₂によるチェック回数が増えるに従って、チェック時に検出される電流値iは減少していき、図4中の1.41(V)上の太線に沿って下降していく。そして、例えば、3回目の充電状態チェックで、検出された電流値iが判定基準値K以下と判定されたとする。この検出された電流値iが判定基準値K以下と判定されるまでのチェック回数(3回)は前回の最低チェック電圧値E₁で検出された電流値iが判定基準値K以下と判定されるまでのチェック回数(20回)よりも少なく、従って、さらに充電を続けるものとする。

【0052】

次に、チェック電圧値E₃をチェック電圧値E₂から0.01(V)上げて1.42(V)に設定し、このチェック電圧値E₃による最初の充電状態チェックでは、ニッケル-水素電池に約2(mA)の電流が流れ、該チェック電圧値E₃によるチェック回数が増えるに従って、チェック時に検出される電流値iは減少していき、図4中の1.42(V)上の太線に沿って下降していく。そして、例えば、3回目の充電状態チェックで、検出された電流値iが判定基準値K以下と判定されたとする。この検出された電流値iが判定基準値K以下と判定されるまでのチェック回数(3回)は前回のチェック電圧値E₂で検出された電流値iが判定基準値K以下と判定されるまでのチェック回数(3回)と同じで、従って、この場合も、さらに充電を続けるものとする。

【0053】

以後、同様に充電状態をチェックしていき、1.47(V)のチェック電圧値で、検出された電流値iが判定基準値K以下と判定されるまでのチェック回数が、その前の1.46(V)のチェック電圧値で、検出された電流値iが判定基準値K以下と判定されるまでのチェック回数を越えたとすると、ここで、ニッケル-水素電池の充電を停止する。このように二次電池を充電することで、該二次電池の充電率は略100%となる。

【0054】

次に、図5を参照しながら第2実施形態に係る充電装置1による充電の流れを説明する。

まず、ユーザは充電装置1に二次電池10をセットして、操作部3を操作すると、二次電池10は充電装置1による測定対象となる全ての種類、全ての型番の二次電池の定格満充電平衡電圧値よりも低い最低チェック電圧値E₁(例えば、1.40(V))で微小時間T₂(例えば、5(秒))印加される(ステップB1)。

【0055】

この最低チェック電圧値E₁で二次電池10を微小時間T₂印加している間に、電流検出部8によって二次電池10に流れている電流値iを検出して(ステップB2)、前記第1判定プログラムでこの検出した電流値iの判定を行う(ステップB3)。

【0056】

この検出した電流値 i が判定基準値 K を越えていれば（ステップB3）、電圧・電流制御部5により充電電圧を前記所定の充電印加電圧値 E_t に切り換えて、該所定の充電印加電圧値 E_t で二次電池10を所定時間 T_1 （例えば、55（秒））印加する（ステップB4）。この所定の充電印加電圧値 E_t で二次電池10の充電を行い、所定時間印加 T_1 の経過後、電圧・電流制御部5により充電電圧を前記最低チェック電圧値 E_c に切り換えて、再び、前記ステップB1に戻る。

【0057】

一方、検出した電流値 i が判定基準値 K 以下であれば（ステップB3）、前記演算制御部4のインクリメントプログラムにより、それまでのチェック電圧値 E_c （最低チェック電圧値 E_c を含む）に前記所定の刻み幅の電圧値 ΔE （例えば、0.01（V））を加算して新たなチェック電圧値 E_{c+1} （= $E_c + \Delta E$ ）を設定するとともに（ステップB5）、電圧・電流制御部5により充電電圧を前記所定の充電印加電圧値 E_t に切り換えて、該所定の充電印加電圧値 E_t で二次電池10を所定時間 T_1 （例えば、55（秒））印加する（ステップB6）。

【0058】

そして、所定時間 T_1 の経過後、電圧・電流制御部5により充電電圧をこの新たなチェック電圧値 E_c に切り換えて、該新たなチェック電圧値 E_{c+1} で二次電池10を微小時間 T_2 印加し（ステップB7）、この微小時間 T_2 の間に、電流検出部8によって二次電池10に流れている電流値 i を検出して（ステップB8）、前記第1判定プログラムでの検出した電流値 i の判定を行う（ステップB9）。

【0059】

この検出した電流値 i が判定基準値 K を越えていれば（ステップB9）、前記ステップB5に戻り、一方、該電流値 i が判定基準値 K 以下となつては（ステップB9）、前記第2判定プログラムによって前記第1判定プログラムによる前回の肯定判定（検出した電流値 i が判定基準値 K 以下との判定）から今回の肯定判定（検出した電流値 i が判定基準値 K 以下との判定）までの間に切り換えられた、チェック電圧値 E_c への切換回数 N_c を判定する（ステップB10）。

【0060】

この第1判定プログラムによる前回の肯定判定から今回の肯定判定までの間のチェック電圧値 E_c への切換回数 N_c が前々回の肯定判定から前回の肯定判定までの間のチェック電圧値 E_{c-1} への切換回数 N_{c-1} の r 倍以下であれば（ステップB10）、前記ステップB6に戻り、一方、第1判定プログラムによる前回の肯定判定から今回の肯定判定までの間のチェック電圧値 E_c への切換回数 N_c が前々回の肯定判定から前回の肯定判定までの間のチェック電圧値 E_{c-1} への切換回数 N_{c-1} の r 倍を越えては（ステップB10）、充電停止信号が出力されて（ステップB11）、二次電池10の充電が停止される（ステップB12）。

【0061】

なお、前記ステップB11で、充電停止信号が出力されたときに、即座に二次電池10の充電を停止してもよく、あるいは、ある時間が経過した後に二次電池10の充電を停止してもよい。後者の場合は、前記充電停止信号が出力されると、例えば、電圧・電流制御部5により充電電圧を前記所定の充電印加電圧値 E_t に切り換えて、該所定の充電印加電圧値 E_t で二次電池10を第2の所定時間 T_3 印加した後、二次電池10の充電を完了する。あるいは、前記充電停止信号が出力されると、前記所定の充電印加電圧値 E_t による所定時間 T_1 の電圧印加と、前記チェック電圧値 E_c による微小時間 T_2 の電圧印加とかく成るサイクルを所定回数繰り返した後、二次電池10の充電を完了するように構成してもよい。

このように充電することで、二次電池10の充電率がさらに100%に近づくように充電することができる。

【0062】

以上のような構成で、この第2実施形態の充電装置1によれば、二次電池10の種類や型番等に関わらず、どのような二次電池10であっても、その二次電池10の満充電平衡電圧値を探り当てながら、充電率が約100%になるように充電することができ、信頼性が向上する。さらに、この充電装置1は、内部構造が一部破壊されて劣化している二次電池10に対しても有効で、その二次電池10の現時点の満充電平衡電圧値を探り当てて、現時点の蓄電容量に対して充電率が約100%になるように充電することができる。

【0063】

次に、第2実施形態に係る充電装置1による充電理論について説明する。

図6に示すように、一定値に近づく漸近特性をもつ関数の一般形としては、3つの例が挙げられる。このうち図6中の(b)の関数に関しては、第2実施形態に係る充電装置1による充電には当てはまらないため、図6中の(a)の関数及び(c)の関数について検討する。

まず、図6中の(a)の関数について説明すると、図7に示すように、充電率が100%の満充電状態の飽和時の電位を $V_{eq,f}$ とするとき、起電電圧 $V_{eq}(t)$ は次式(a-1)で表される。

【0064】

【数1】

$$V_{eq}(t) = \{V_{eq,f} - V_{eq}(t_0)\}(1 - e^{-\lambda(t-t_0)}) + V_{eq}(t_0) \quad (a-1)$$

【0065】

ここで、時刻 $t = t_1$ のときの起電電圧を $V_{eq}(t_1)$ とすると、次式(a-2)が成立する。

【0066】

【数2】

$$V_{eq}(t_1) = \{V_{eq,f} - V_{eq}(t_0)\}(1 - e^{-\lambda(t_1-t_0)}) + V_{eq}(t_0) \quad (a-2)$$

【0067】

この状態からチェック電圧値を ΔV 上げて新たなチェック電圧値を設定し、電池起電電圧がこの新たなチェック電圧値に平衡するまでの所要時間を Δt (t_n)とすると次式(a-3)が成立する。

【0068】

【数3】

$$V_{eq}(t_1) + \Delta V = \{V_{eq,f} - V_{eq}(t_0)\}(1 - e^{-\lambda(t_1+\Delta t-t_0)}) + V_{eq}(t_0) = V_{eq}(t_2) \quad (a-3)$$

【0069】

この式(a-3)を整理すると、次式(a-4)が得られ、この式(a-4)は式(a-2)を使うと、式(a-5)で表される。

【0070】

【数4】

$$\Delta t(t_1) = \frac{1}{\lambda} \ln \left[1 - \frac{\Delta V}{\{V_{eq,f} - V_{eq}(t_0)\} e^{-\lambda(t_1-t_0)}} \right]^{-1} \quad (a-4)$$

$$\Delta t(t_1) = \frac{1}{\lambda} \ln \left[\frac{V_{eq,f} - V_{eq}(t_1)}{V_{eq,f} - V_{eq}(t_1) - \Delta V} \right] \quad (a-5)$$

【0071】

式(a-3)で示される時刻 $t = t_2$ から $2\Delta t(t_1)$ の時の電池電圧 $V_{eq}(t_2 + 2\Delta t(t_1))$ を算出し、 $V_{eq}(t_2) + \Delta V$ と比較する。

すなわち、式(a-1)に、 $t = t_1 + 3\Delta t(t_1)$ を代入した次式(a-6)と、式(a-1)に、 $t = t_2$ を代入して ΔV を足した次式(a-7)との比較になる。

【0072】

【数5】

$$V_{eq}(t_1 + 3\Delta t(t_1)) = \{V_{eq,f} - V_{eq}(t_0)\} (1 - e^{-\lambda(t_1-t_0+3\Delta t(t_1))}) + V_{eq}(t_0) \quad (a-6)$$

$$V_{eq}(t_2) + \Delta V = \{V_{eq,f} - V_{eq}(t_0)\} (1 - e^{-\lambda(t_1+\Delta t(t_1)-t_0)}) + V_{eq}(t_0) + \Delta V \quad (a-7)$$

【0073】

式(a-6)が式(a-7)よりも大きければ、基点は $t = t_2$ となり、充電は続行する。一方、式(a-6)が式(a-7)よりも小さければ、充電は終止し、終止した電池起電電圧は式(a-6)で規定される。ここで、次式(a-8)は、式(a-6)から式(a-7)を引いた計算式である。

【0074】

【数6】

$$\begin{aligned} A &= \{V_{eq,f} - V_{eq}(t_0)\} e^{-\lambda(t_1-t_0)} e^{-\lambda\Delta t(t_1)} (1 - e^{-2\lambda\Delta t(t_1)}) - \Delta V \\ &= \{V_{eq,f} - V_{eq}(t_1) - \Delta V\} (1 - e^{-2\lambda\Delta t(t_1)}) - \Delta V \end{aligned} \quad (a-8)$$

【0075】

具体例として、ここで、ある二次電池が次の定数を持つとする。

$V_{eq,f} = 1.417$ (V)、 $V_{eq}(t_0) = 1.385$ (V)、定数 λ は充電電流によって決まる定数、比較電圧のアップは $\Delta V = 0.01$ (V) とする。計算の基点は図8の時間-電圧のパターンの場合、時刻 $t = t_1$ となる。(チェック開始電圧は 1.38 (V) としても、制御の対象となるのは同図の場合、時刻 $t = t_1$ 以降となる。)

これらの値を前記の式(a-8)に代入すると、次式(a-9)が得られる。

【0076】

【数7】

$$A = \{V_{eq,f} - V_{eq}(t_1) - \Delta V\} (1 - e^{-2\lambda\Delta t(t_1)}) - \Delta V = (1.407 - V_{eq}(t_1)) (1 - e^{-2\lambda\Delta t(t_1)}) - 0.01 \quad (a-9)$$

【0077】

以上の計算式に基づき、前記第2実施形態に係る充電装置1において、第2判定プログラムでの判定に係る定数rを、r=2と設定したときの実例を説明する。

【0078】

図9に示すように、まず、最低チェック電圧値を1.39(V)に設定して、二次電池の充電を開始する。充電が進み二次電池の起電電圧が1.39(V)に達すると平衡して充電は停止する。

次にチェック電圧値を0.01(V)上げて1.40(V)とすると、ある時間経過後(図9の例では、無次元化された時間で0.463)、電池起電電圧は1.40(V)に達する。さらに、チェック電圧値を0.01(V)上げて1.41(V)とし、1.40(V)から1.41(V)に達するに要した時間(無次元化された時間で0.887)の2倍の時間経過すると充電を終止させる。このときの電池起電電圧は1.4158(V)となり、本来の満充電時起電電圧の99.9%に達している。

【0079】

この制御方式は二次電池のもつ充電特性がこのパターンである限り、起電電圧に差があっても正しく満充電時の起電電圧に近づけることが可能であり、従って、二次電池の品種を問わず満充電が可能である。

【0080】

次に、図6中の(c)の関数について説明する。

図10に示すように、この場合の充電の概要を説明すると、時刻t=t₁で電池電圧がチェック電圧値に平衡し、そのときの電圧はV_{eq}(t₁)となる。次にチェック電圧値を△V上げて新たなチェック電圧値を設定して、充電を持続し、平衡するまでの時間を△t(t₁)とする。そこでの平衡電圧はV_{eq}(t₁)+△Vである。さらにチェック電圧値を△V上げて新たなチェック電圧値を設定し、充電を持続する。このとき、2△t(t₁)経過しても平衡しないときは充電を終止する。平衡したときはその時間経過を△t(t₂)とし、そのときの平衡電圧はV_{eq}(t₁)+2△Vとなる。そして、チェック電圧値を△Vずつ上げて、以上の過程を繰り返す。

【0081】

以上の充電制御を数学的に演繹すると、図10に示す電位曲線は次式(b-1)に従うものとする。

【0082】

【数8】

$$V_{eq}(t) = (V_{eq,f} - V_{eq,2'}) \frac{1}{1 + e^{-\lambda(t-t_c)}} + V_{eq,2'} \quad (b-1)$$

【0083】

時刻t=t₁のとき、式(b-1)に代入すると、次式(b-2)が得られる。

【0084】

【数9】

$$V_{eq}(t_1) = (V_{eq,f} - V_{eq,2'}) \frac{1}{1 + e^{-\lambda(t_1-t_c)}} + V_{eq,2'} \quad (b-2)$$

【0085】

この時点より、電圧が△V上昇するのに要する時間を計算する。

【0086】

【数10】

$$V_{eq}(t_2) = V_{eq}(t_1) + \Delta V = (V_{eq,f} - V_{eq,2'}) \frac{1}{1 + e^{-\lambda(t_1 + \Delta t(t_1) - t_c)}} + V_{eq,2'} \quad (b-3)$$

【0087】

上式 (b-3) を変形すると、次式 (b-3') が得られる。

【0088】

【数11】

$$\Delta t(t_1) = \frac{1}{\lambda} \ln \left\{ \frac{1 + \frac{\Delta V}{(V_{eq,f} - V_{eq,2'})} (1 + e^{-\lambda(t_1 - t_c)})}{1 - \frac{\Delta V}{(V_{eq,f} - V_{eq,2'})} (1 + e^{\lambda(t_1 - t_c)})} \right\} \quad (b-3')$$

【0089】

また、前記の式 (b-2) を変形すると、次式 (b-2') が得られる。

【0090】

【数12】

$$e^{-\lambda(t-t_c)} = \frac{V_{eq,f} - V_{eq}(t)}{V_{eq}(t) - V_{eq,2'}} \quad (b-2')$$

【0091】

以上の計算式に基づき、前記第2実施形態に係る充電装置1において、第2判定プログラムでの判定に係る定数rを、r=2と設定したときの実例を説明する。

チェック電圧値を0.01(V)ずつ上げていったときに、充電のステップ(充電の度合い)によって、そのバーの高さ(チェック電圧値)をクリアーするのに要する時間が異なり、その所要時間が前の2倍になったときに、充電を終止したときの平衡電圧を計算する。

【0092】

図11では、最初のバーの高さである最低チェック電圧値を1.40(V)に設定して、1.40(V)から1.41(V)にチェック電圧値をあげると、そこをクリアーするのに無次元化された時間で1.299を要している。また、1.43(V)から1.44(V)には図11の表中の最低時間(無次元化された時間で0.673)でクリアーし、チェック電圧値をさらに上げると、そのチェック電圧値をクリアーするのに要する時間が長くなり、あげくはいつまで経ってもクリアーできないことになる。そこで、最後にクリアーした所要時間の2倍を限度に充電を終止させた場合、目標値に達成度を計算したのが図11の表の最下段の値となる。この表からもわかるように、この充電方法によれば、充電終止時に、本来の満充電時起電電圧の99.97%に達している。

【0093】

以上は、前記第2実施形態に係る充電装置1において、第2判定プログラムでの判定に係る定数rを、r=2と設定した場合の説明である。この定数の設定rは、1以上であれば、限定するものではない。この定数rをr=1と設定した場合には、図10における電圧曲線の縦曲点(時刻t=t_cでの電圧値)付近で充電が停止し、充電終了時の二次電池の充電率は約80%となっている。このような設定の充電の方法も有効であり、不可逆反応領域Dに決して達することなく充電を行うことができて、サイクル寿命を5000回を

越えるまでに飛躍的に延ばすことができる。

【図面の簡単な説明】

【0094】

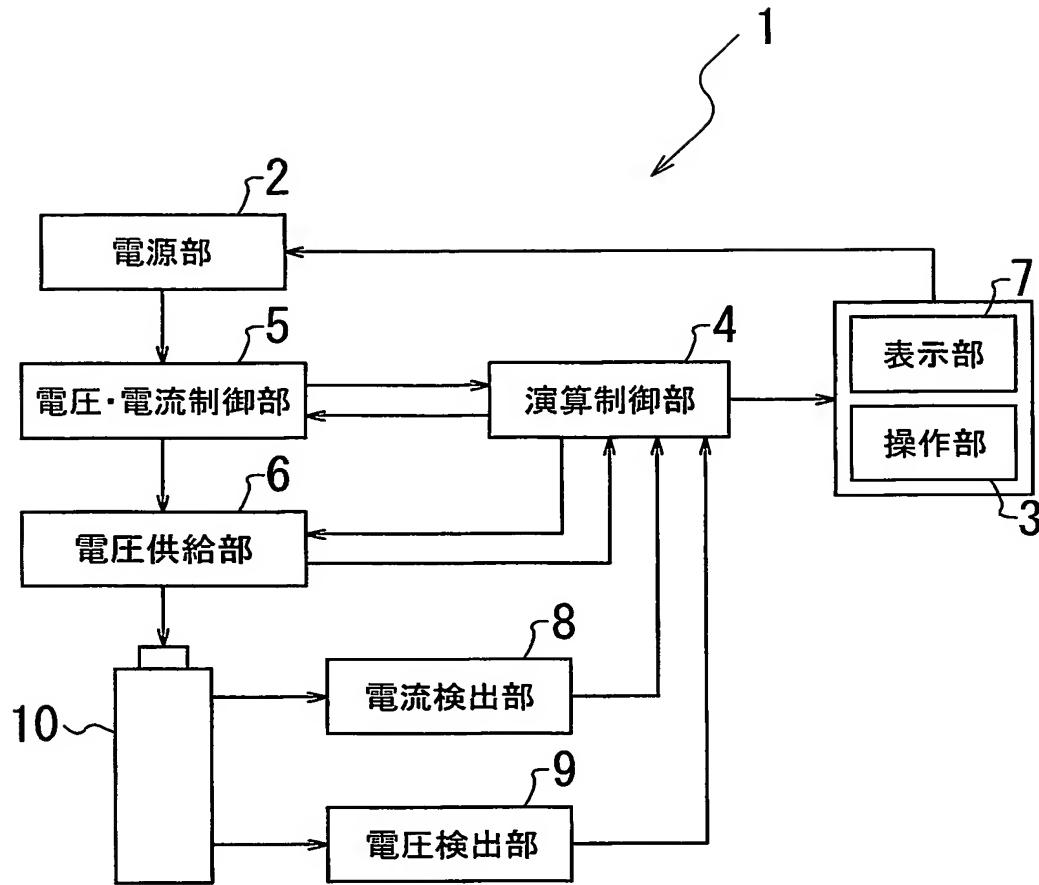
- 【図1】二次電池の充電装置1の制御構成を示すブロック図。
- 【図2】二次電池10の充電率ごとの電流一電圧特性を示すグラフ。
- 【図3】第1実施形態の充電装置1による充電制御を示すフローチャート。
- 【図4】図2における矢視Pの部分を拡大した図。
- 【図5】第2実施形態の充電装置1による充電制御を示すフローチャート。
- 【図6】一定値に近づく漸近特性をもつ関数を示す図。
- 【図7】図6中の(a)に示す関数の漸近特性を示す図。
- 【図8】図6中の(a)に示す関数の漸近特性を示す図。
- 【図9】チェック電圧値をインクリメントしていくときの充電終了状態の判定を示す表。
- 【図10】図6中の(c)に示す関数の漸近特性を示す図。
- 【図11】チェック電圧値をインクリメントしていくときの充電終了状態の判定を示す表。

【符号の説明】

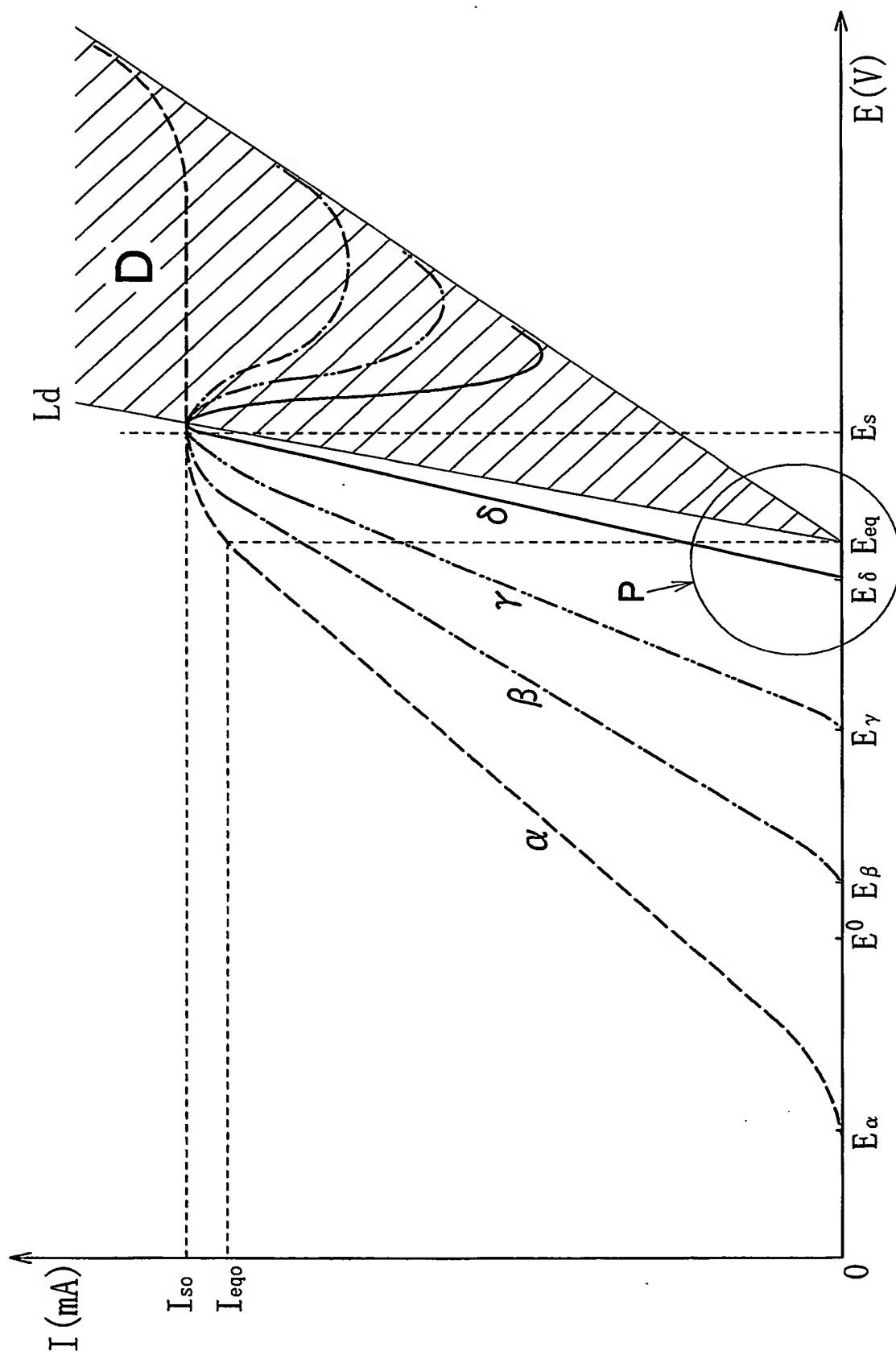
【0095】

- | | |
|----|----------|
| 1 | 充電装置 |
| 2 | 電源部 |
| 3 | 操作部 |
| 4 | 演算制御部 |
| 5 | 電圧・電流制御部 |
| 6 | 電圧供給部 |
| 7 | 表示部 |
| 8 | 電流検出部 |
| 9 | 電圧検出部 |
| 10 | 二次電池 |

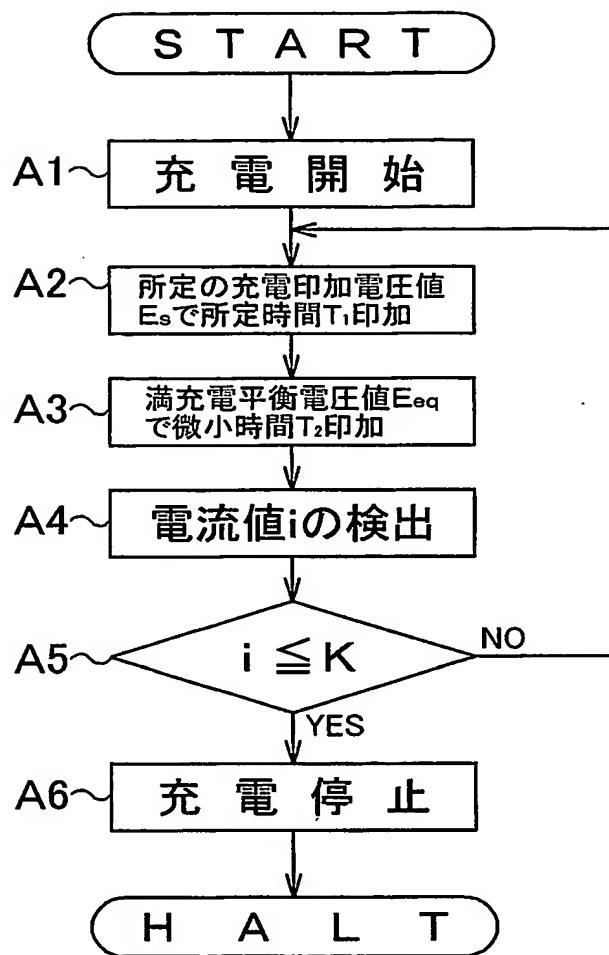
【書類名】図面
【図1】



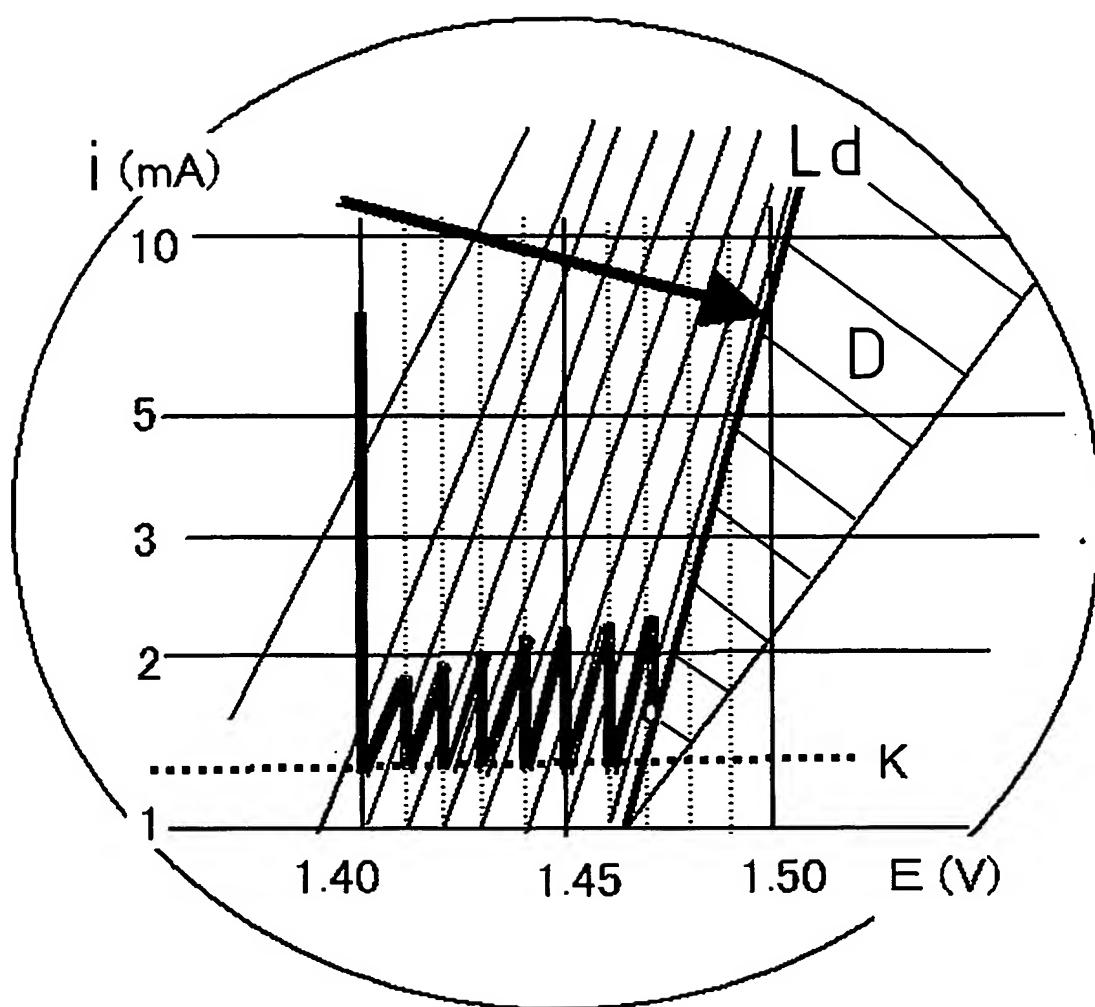
【図2】



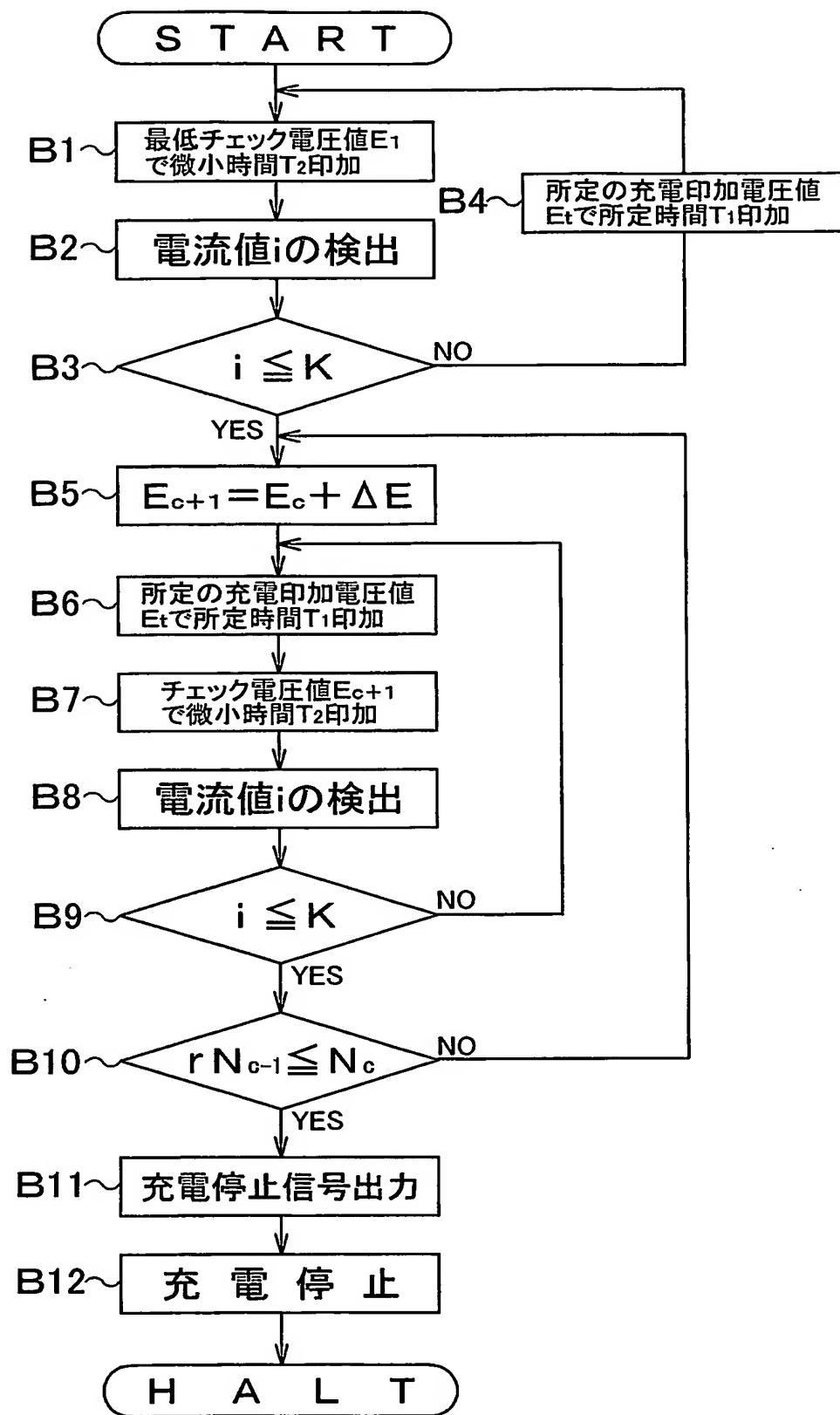
【図3】



【図4】

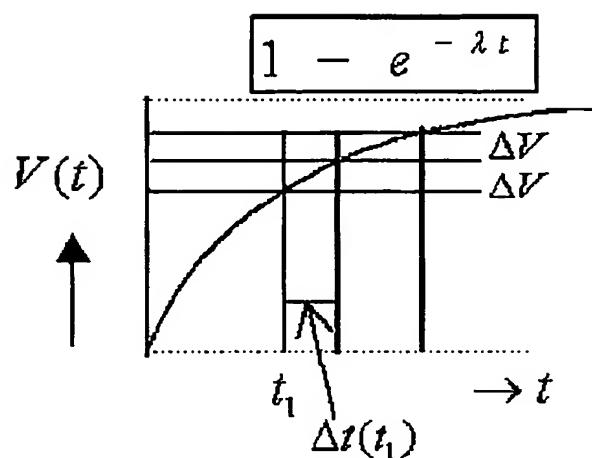


【図5】

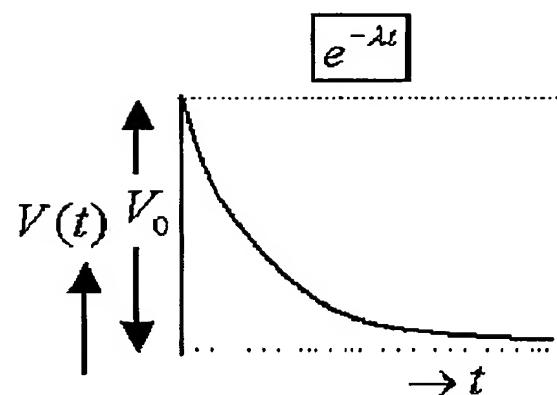


【図6】

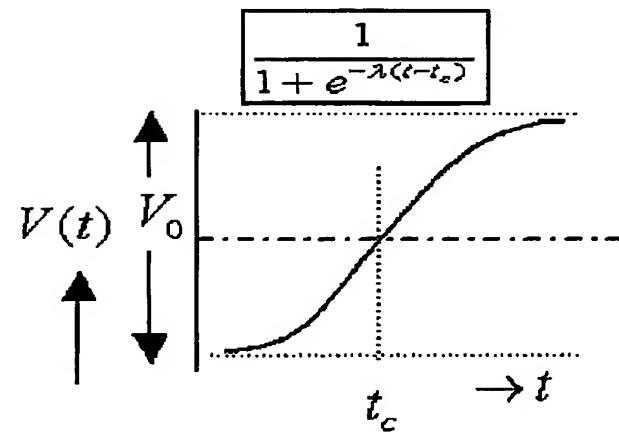
(a)



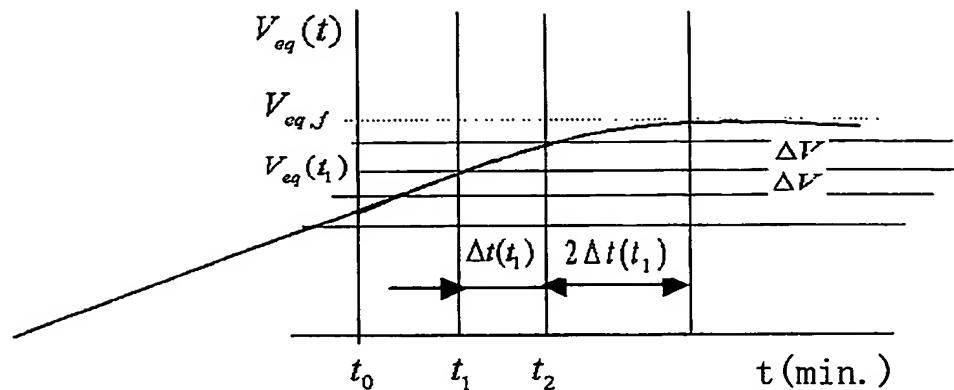
(b)



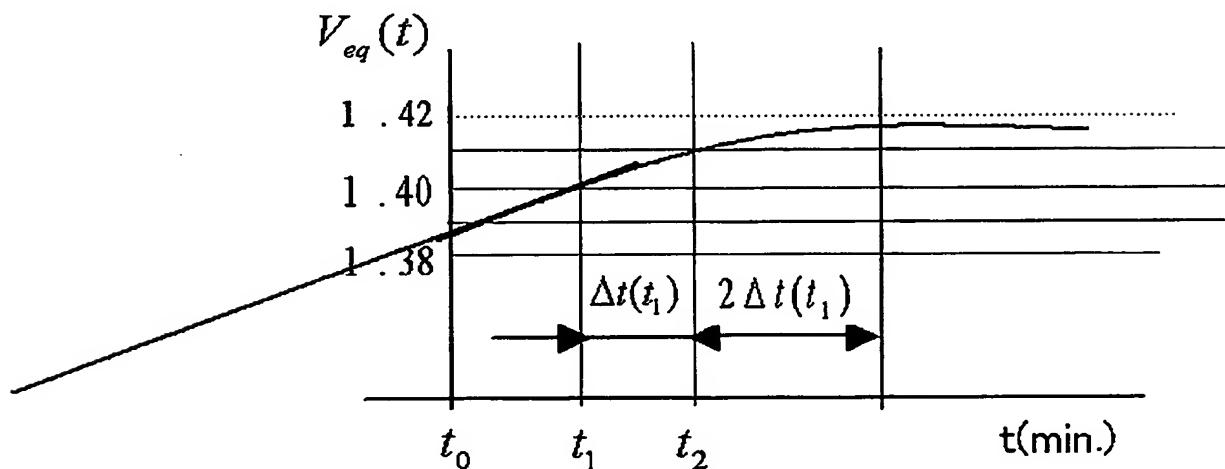
(c)



【図7】



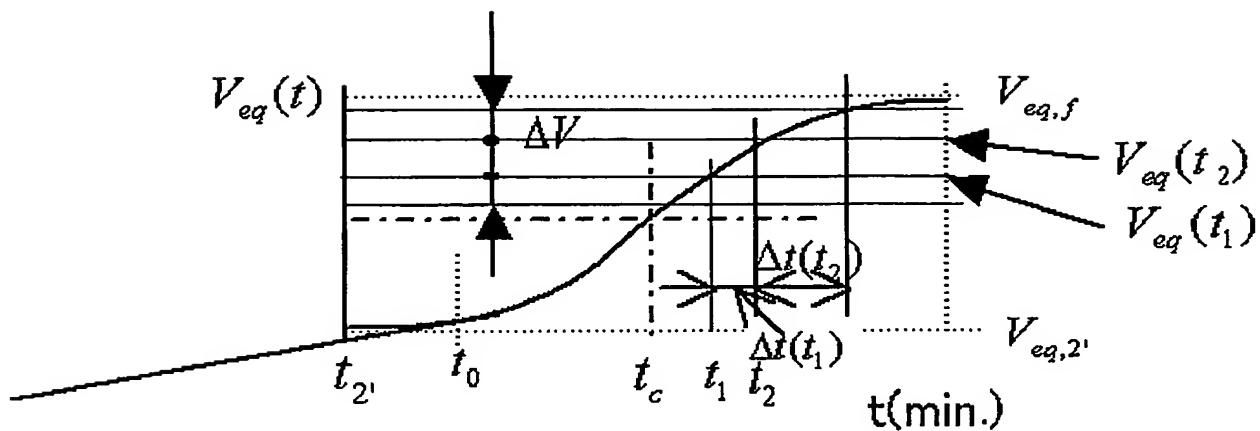
【図8】



【図9】

$V_{eq}(t_1)$	$\lambda \Delta t(t_1)$	A	$V_{eq}(t_2 + 2\Delta t(t_1))$
1.39	0.463		
1.4	0.887	+	
1.41	2x0.887	-	
			1.4158 vs. 1.42

【図10】



【図11】

V _{check}	(1)V _{eqf} =1.455,V _{eq2} =1.395V		(2)V _{eqf} =1.445,V _{eq2} =1.395V		(3)V _{eqf} =1.435,V _{eq2} =1.395V	
	e ^{-λ(t-tc)}	λ Δt(t)	e ^{-λ(t-tc)}	λ Δt(t)	e ^{-λ(t-tc)}	λ Δt(t)
1.4	11	↓		9		7
1.41	3	↓	1.299	2.33	1.35	1.666
1.42	1.4	0.762		1	0.847	0.6
1.43	0.714	0.673	0.4286	0.847	0.1428	1.435
1.44	0.333	0.762	0.1111	1.35		1.435x2
1.45	0.0909	1.3		1.35x2		
終止時V _{eq}	1.45459	99.97%	1.44463	99.97%	1.4347	99.97%

【書類名】要約書

【要約】

【課題】二次電池の種類や型番等に関わらず、どのような二次電池であっても、充電率が約100%になるように充電することができる二次電池の充電装置を提供することを課題とする。

【解決手段】二次電池の充電装置1に、それまでのチェック電圧値に所定の刻み幅の電圧値を加算して新たなチェック電圧値を設定するインクリメント手段と、充電電圧を所定の充電印加電圧値又はチェック電圧値に切り換える電圧・電流制御部5と、電流検出部8によって検出された電流値が、予め入力設定された判定基準値以下になったか否かを判定する第1の判定手段と、第1の判定手段による前回の肯定判定から今回の肯定判定までの間の所要時間が、前々回の肯定判定から前回の肯定判定までの間の所要時間のr(rは1以上の実数)倍を越えたか否かを判定する第2の判定手段と、を具備した充電制御装置を設ける。

【選択図】図5

特願 2004-049782

出願人履歴情報

識別番号 [500227059]

1. 変更年月日 2003年10月 3日

[変更理由]

住所変更
兵庫県神戸市中央区港島南町五丁目5番2号 神戸国際ビジネスセンター

住 所

テクノコインターナショナル株式会社

氏 名

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- BLACK BORDERS**
- IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- FADED TEXT OR DRAWING**
- BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- SKEWED/SLANTED IMAGES**
- COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- GRAY SCALE DOCUMENTS**
- LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- OTHER:** _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.